

養父市立大屋中学校

令和7年度 学 校 評 価

(学校自己評価・学校関係者評価)

1 本年度の学校教育目標

伸びよ 豊かに たくましく ～未来の郷土を切り拓く生徒の育成～

2 本年度の学校重点目標

(1) こころ豊かで自立する人づくり <small>(小中一貫教育の推進、地域連携の推進)</small>	(2) 「生きる」力を育む教育の推進 <small>(確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成・特別支援教育の推進)</small>
(3) 教職員の資質能力の向上 <small>(教職員の協働体制の確立、実践的指導力の向上、教職員の働き方改革の推進)</small>	(4) 安心、安全で魅力ある学校づくり <small>(生徒指導の充実、人権教育の推進、安全教育の推進、コロナ対策)</small>

3 学校自己評価結果 (A 良好 B 概ね良好 C やや努力を要する D 一層の努力を要する)

分野	達成状況	学校の取組状況・改善の方向
開かれた学校づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを作成し、学校での様子を保護者や地域に発信した。ホームページでも、生徒の活動の様子などを載せており、保護者の方だけでなく地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことが概ねできている。また、学年通信を毎月発行し、行事予定や学年の様子を写真や文書で伝えることができた。 合同運動会・文化祭を土曜日開催にし、多くの保護者・地域の方々に来校していただいた。合同運動会では、PTAの大きな協力のもと実施することができた。 ミズパシヨウ公園や明延・神子畑選鉱場体験学習、青谿書院や木彫フォークアート見学など、地域に直接出向いて学習することができた。 オープンスクールに、保護者や地域の方々にもっと多く足を運んでもらえる工夫が必要である。
危機管理体制の整備	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災計画に従って防災に関する授業や避難訓練等を実施した。 6月と1月に避難訓練を実施し、1月の避難訓練(地震)では防災集会を行い、阪神淡路大震災の知識を深め、防災意識を高めることができた。 防犯についての警察等、関係機関との連携は非常に有効であった。
教職員の資質向上	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の講師を招いて、小中合同で研修会を2回行った。10月に、中学校2年生が道徳の授業研究を行い、小中合同で事後研究会を持ち研修を深めた。 全職員が前向き、協力的に取り組み、様々な研修が計画的に実施できた。また、研究授業や事後研修会を通して、今後につながる指導方法を学ぶことができた。
勤務時間の適正化	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員定時退勤日の完全実施が行われている。職務の優先順位を明確化したりして、軽重のある働き方をするよう意識改革を進めている。
校種間連携(小中一貫教育)	A	<ul style="list-style-type: none"> 大屋小中合同研修会を2回開催した。つながり部会と授業改善部会に分かれて研修を行った。つながり部会では、すべての児童・生徒にSNSの利用について実態調査を行い現状把握に努め、児童生徒・保護者にも啓発することができた。授業改善部会では、授業規律や授業のメリハリについて研修を進め、学習に取り組む姿勢の改善に努めた。 6年生登校を1回実施した。2回実施の予定であったが、大雪警報発令により中止となった。 今年度は、音楽・英語(ALT)で中学校の教師が小学校2～6年生を対象に乗り入れ授業を行い校種間連携を深めた。 今年度初の試みである大屋小中運動会を実施した。児童生徒が協力しながら切磋琢磨し、素晴らしい運動会となった。小中の教職員で連携を深めながら合同運動会の礎をつくることができた。
基礎基本の定着と個に応じた指導	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台のタブレットを有効活用して授業に取り組んでいる。 指導形態を工夫しながら生徒の学力向上を目指した取組を行っている。今年度は、数学と英語で少人数指導を行い、学習活動の充実が図れた。 3観点の評価について、評定との関係を明確にした。 定期考査前に、学習相談日を設けて、生徒の個に応じた質問に答えるようにしている。
人権・道徳教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業時数がしっかりと確保され、道徳実践力では、基本となる社会でのマナーは少しずつ向上している。しかし、地域の特性上、固定した人間関係だからこそ許されてしまっていることもある。 外部から講師を招聘して、年間2回行った小中合同研修で、教員の資質向上を図った。
読書活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書館開放や朝読書、お話プレゼントなどで、読書活動の推進を図っている。 読書スペース(おばあちゃんの部屋)を設置したことにより、本に接する機会を増やすことができた。また、小学校への読み聞かせ訪問や読書貯金通帳の作成など、新しい取り組みができた。 毎日の朝読書(8:15～8:25)に私語をせず集中して取り組んでいる。

4 総合的な学校関係者評価

・全体として健全・堅実な学校運営がなされていると判断します。小学校と中学校が連携して教育に取り組んでおり、そのことが保護者や地域に大きな安心感をもたらしています。教職員の皆さんのより良い学校運営に対する取り組みや熱意に敬意を表します。
 ・概ね達成できていると思う。特に小中や地域との連携は高評価に値する。
 ・少子高齢化を見据え、小中一貫教育・幼小中連携を推し進めてほしい。
 ・部活動の地域展開が進む中、大屋の生徒が活動できる場所が確保できるのか不安である。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりは多くの住民が学校生活をする唯一のものなので、写真を多用し、より見やすくするよう努めてほしい。 HPの更新が頻繁に行われ、学校だよりも多く作成されている。保護者だけでなく地域住民にも適切に情報発信ができています。 学校だよりやホームページ等は、中学校を知ってもらうためにも大切なことであるので、今後も継続してほしい。 生徒が地域の歴史や文化・自然を学ぶ機会を増やしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 災害の比較的少ない大屋だからこそ、防災教育を進め防災意識を高めてほしい。 防災訓練等がマンネリ化しないよう、今後も関係機関との連携をお願いしたい。 訓練や震災の知識を得ることは大切である。震災が起こった後の生活についても学べればよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> より良い学校づくりのために様々な研修が適切に実施されている。 教師各自の自己研鑽を高める計画を考えてもよいのではないかと。 小中合同の研修は、よいことであると思う。
<ul style="list-style-type: none"> 教職員が体調を崩すことがないよう、今後も業務量・業務内容の適正化をお願いしたい。 忙しい中ではあると思うが、定時退勤ができるよう、改善点があれば見直していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 小中の連携を深め、一貫した考えで教育ができるよう期待している。 小中合同運動会は良い取組だと思う。ぜひ、続けてほしい。 初めての小中合同運動会であったが、児童生徒の機敏な動きが随所に見られ非常に頼もしかった。今回の反省点を踏まえ、次年度のブラッシュアップを図っていただきたい。 小中の連携はできていると思う。初めての合同運動会であったが、色々分かかったこともあると思うので、今後に生かしてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな学習指導がなされておりありがたく思う。基礎学力の定着のため今後もこれらの取り組みをお願いしたい。 個人の状況に応じた教育を進めてほしい。 少人数指導等、個人の学力向上を今後も目指してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育が生徒にとって良い学びとなり、さらなる道徳意識の醸成となることを期待する。 道徳、マナーは、これから先も大切なことであるので、しっかりと取り組んでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 本を読む習慣がつくよう、朝読書を継続して取り組んでほしい。 読書活動は学力向上の観点からも有効であると考えている。今後も継続して取り組んでいただきたい。 本に触れる機会を増やすことは良い。

教科及
TK

教科外の学習指導	キャリア教育の充実	○生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容になっている。 ○「キャリアノート」・「キャリアパスポート」を計画的に活用している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリアノート」と「キャリアパスポート」の活用について、小中9カ年を見通した指導を行っている。 キャリアノートをファイリングして、どの学年に上がっても、振り返りやすいようにし、キャリア教育の積み上げとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自分を見つめ直す良い機会であるが、的確なアドバイスが必要であると感じる。 自分を見つめ直す良いことであると思う。
	情報教育	○教育活動全体において、ICT機器を適切かつ効果的に使用し、教育効果を高めている。 ○情報モラルの育成と情報活用能力の育成を図っている。 ○一人一台のタブレットを有効に活用している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「大屋中学校生徒会SNS利用の6か条」をもとに、SNS・ゲーム使用の3本柱について意識調査や啓発活動を行った。 一人一台タブレットを活用して、欠席者に授業配信を行った。 授業では、動画発信や振り返り学習、表計算学習など、ICT機器を活用した。 道徳の時間に「GIGAワークブック」を活用した情報モラル学習を全学年で取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今問題になっているSNS等の情報モラルの学習を徹底して取り組んでほしい。 家庭でのゲーム機・タブレット等の使用状況を見ていく必要があると思う。 SNSの利用に関する教育は学校だけではなく、家庭における指導が非常に重要であるとする。 多くの生徒がスマホを持っていると思うので、モラルや危険性については何度も説明すべきである。
	特別支援教育	○特別支援教育に関する理解を促す研修等が計画的・組織的に行われている。 ○インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られている。 ○校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全教職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や個別の支援計画を作成し、それを基に特別支援教育の取り組みを進めた。 和田山特別支援学校の講師を招聘し、授業を参観してもらった後、担任と面談をして指導助言を受けたりした。講師からの助言を教職員で共有し、指導の仕方を工夫した。 通級指導により、対象の生徒のコミュニケーション能力の向上やソーシャルスキルの向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々のニーズに応じた教育を今後も継続していただきたい。 研修や助言をもとに取り組み、共有できていることは良い。
生徒指導・その他	あいさつ・掃除	○学校・地域の中で気持ちの良い挨拶ができています。また一生懸命掃除に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの責任感が高まり、全校的に拭き掃除を頑張る生徒が増えてきた。また、学校をきれいにしようという思いを持った生徒が育っていることを実感する。 生徒会の生活委員会によるあいさつ向上の取組で、あいさつの声の意識ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民からの評判の良い「あいさつ」をさらに向上させてほしい。 しっかりとあいさつしてくれる生徒が多いと思うので、継続してほしい。 丁寧な掃除により学校がきれいに保たれている。今後も継続して取り組んでほしい。 中学生は本当によくあいさつをしてくれる。
	いじめ防止	○いじめアンケートによる実態把握や教育相談を通して、生徒理解を深めている ○いじめの未然防止と早期発見に心がけた取組をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のいじめアンケートによる実態把握や、毎週行っている生徒指導部会による各担任や関係の職員の見取りを通して、未然防止、早期対応に心がけている。 毎学期の担任との教育相談や、毎日のデイリーノートから生徒理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態把握と早期の対応に努めていただきたい。 いじめの未然防止、早期発見、早期対応が図られている。今後も継続した取り組みをお願いしたい。 今後も早期発見に努めていただきたい。
	生徒理解	○指導に対する教職員間の共通理解、「報連相共」が十分できている	A	<ul style="list-style-type: none"> 対処療法的でなく積極的な生活指導を図っている。そのため、生徒が安心して通える学校環境、安心して学べる学習環境が確立されている。 教職員が休み時間等も教室に上がり、生徒との人間的なふれあいの時間を大切にしている。 生徒指導部会、生活指導日誌等、教職員間の共通理解を図る試みを充実させることができた。 担任を中心に、各学年毎に丁寧な指導がされている。 職員間での報告・連絡・相談体制ができており、組織的な素早い対応ができています。 生徒には、学校も公共の場であることをしっかりと指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間での情報共有がしっかりできているので、今後も継続していただきたい。 教職員間での共通理解は大切であるので、今後も続けてほしい。
	不登校	○不登校生徒の早期発見・対応に心がけ、職員間で連携して指導ができています。	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒には、SC、SSW等の関わりを密にしてもらいながら、本人の現状把握をし、管理職と学年職員・関係職員で、組織的・機動的に対策を考えながら取り組んでいる。 校内サポートルームを開設し、登校しにくい生徒や教室に入りにくい生徒に対応できる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒ひとりひとりの状況を考慮して、対応をお願いします。 難しい問題ではあるが、丁寧な対応をお願いしたい。 大変難しい問題であるが、少しでも登校につながるきっかけづくりができるよう工夫していただきたい。
	そうあんくんの日 守国さんの日	○「そうあんくんの日」に積極的に取り組み、生徒に自主的な家庭学習や読書を指導している。	B	<ul style="list-style-type: none"> そうあんくんカードを作成して、振り返りができる取組を進めている。 「そうあんくんの日」を意識させる工夫が必要である。 毎月1日には、「守国さんの日」を設定し、一日一善（何かいいことをしよう）を意識した取組を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の偉人の名をつけた活動は長く記憶に残るものだと思います。継続してほしい。 継続して取り組んでいただきたいが、効果のある取り組みとするためには、家庭での指導がより重要であるとする。 今後も継続していただきたい。